

# 迎春



登米市長  
布施孝尚



登米市議会議長  
星順一

## つなぐ手とつなぐ心でつながる地域へ 「ふるさと登米市」の未来を切り拓く

新年明けましておめでとうございます。皆さまには、輝かしい新春をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。

登米市には、昨年10月の日本を縦断した台風18号による大きな傷跡が未だ残されており、被災された皆さまには改めてお見舞いを申し上げます。市といたしましては、市民の皆さまが安全に安心して暮らせるように、災害時における迅速な初動体制の強化を図るなど、一層の危機管理に取り組んでまいります。

さて、昨年は待望していた三陸縦貫自動車道登米インターチェンジが開通し、地域経済にとって様々な分野への発展的影響が期待されているところでもあります。さらには、高倉勝子様とご子息からの寄贈により高倉勝子美術館「桜小路」が芸術文化の拠点として整備され、地域おこしに取り組む方たちにより「油麩丼」が全国的に紹介されるなど、登米市の魅力が大いに発信された一年となりました。

また、合併の契機となりました広域4事業最後の施設「汚泥再生共同処理センター」が本年3月に完成する運びとなり、登米市の基盤整備は着実に進んでまいりました。

一方、サブプライムローン問題に端を発した世界的金融危機による経済の低迷は、市内新規高卒者の求人が大幅に減少するなど、今なお登米市経済に大きな影響を与えており、雇用機会の拡大を中心とした地域経済の安定と活力向上が大きな課題となっております。さらに、新型インフルエンザの感染拡大へ

の対応など医療への不安が増している中であり、「やすらぎのあるまちづくり」の根幹となる地域医療体制の整備は喫緊の課題であります。非常に厳しい状況にはありますが、医療を安定して提供する「市民の皆さまと医療をつなぐ安心のネットワークづくり」を進めてまいります。

教育においては、少子化の中で県立高校の全県一学区など環境が大きく変わろうとしておりますが、時代の変化に対応できる「個性を輝かせ心豊かに生きる力を持つ人づくり」を行ってまいります。

昨年、政権交代により誕生した新政府は、地域のことは地域に住む住民が決める「地域主権」の早期確立を掲げ大幅な制度設計の見直しを進めており、地方行政に大きな変化をもたらすものであります。このような、住民主体の新しい発想が求められる分権型社会に対応すべく「市民の創造力を生かした協働のまちづくり」をキーワードに、互いに協力の手をつなぎ、信頼の心をつなげて課題に対応する地域づくりに取り組んでまいります。

登米市の舵取り役としてこの変革の時代を見据え、スピードと行動力をもって「ふるさと登米市」の未来を切り拓く任に当たってまいり所存ですので、昨年に引き続き皆さまのご支援とご協力をお願い申し上げます。

結びに、本年が皆さまにとりまして幸多き健やかな年となりますことをご祈念申し上げます。年頭のごあいさつといたします。

## 今年「国際生物多様性年」豊かな 登米市の環境と産業の共生を図ろう

明けましておめでとうございます。市民の皆さまにおかれましては、清々として新しい年をお迎えのことと存じ上げます。

太平洋から立ち上る水蒸気が、北上山系の夜の冷気に触れて霧となり翁倉山や羽沢峠・蚕飼山を越える。華足寺や柳津虚空蔵尊の塔をかすめ、北上川と迫川の朝もやと混じりあって登米耕土を覆う。朝日が昇る。蕪栗沼や伊豆沼・内沼の雁が一斉に飛び立つ。繰り返される太古からの壮大な自然の営み。

昨年は、戦後というより、日本憲政史上大転換の年でありました。1955年以来、半世紀以上続いた自民党「第一党」体制に終止符を打ち、「政権交代」を掲げた民主党が圧勝し、新しい政治の夜明けを期待させました。「事業仕分け」など国民目線を予算・財政に注がせ、政治主導も意識付けました。

登米市議会においても、本則選挙によって30人の構成となり、当選された議員においては市長とともに、8万7千人の市民皆さまの生活の安定向上と登米市の未来を拓く重責を担い、緊張感漂う論戦が交わされました。

また、日本画家高倉勝子様とご子息から貴重な作品とともに美術館「桜小路」を寄贈頂いたこと、伊豆沼農産の日本農業賞大賞の受賞など、大きな感謝と喜びがありました。そのほか、豊里小中学校の小中一貫教育が、全国の議会から注目され視察が相次ぎました。しかし、10月8日の台風18号により、津山町横山地区で大きな被害が発生しましたが、

人命に関わることなく安堵いたしました。一日も早い復興と対策を望むものです。

「合併は最大の行政改革」。5年の歳月が過ぎ、「消防防災センター」など広域4事業や学校建設、住民バスの運行、予定されていた多くの事業が実現しました。

一方、登米病院の診療所化、佐沼病院の小児・産科の入院休止、学校統合、雇用環境の悪化など、登米市が掲げる「安全・安心」に揺らぎを感じさせる5年でもありました。

いま、市政の課題は山積していますが、北上川・迫川が市の中央部を縦断し、海拔6、10層の平地と湖沼は、常に氾濫と浸水の恐れをはらみ、地震災害とともに万全の備えをする治山治水は市政の根幹です。

同時に、命と健康を守る救急と医療の確保も喫緊の課題です。市の病院改革プランは途上にあり、市立病院・診療所の医師の献身的な努力によって支えられています。経営支援とともに市民の皆さまのご理解とご協力、議会と行政はもちろん、皆で病院を支えていく取り組みを構築しなければなりません。

本年は三陸道が東和町米谷まで延伸します。雇用の確保、産業の振興は、若い人たちに登米市で生きる希望と地域に活力を生み出します。市内4500社の事業所の元気と豊かな環境を生かした農商工林業が手を携え、この難局を乗り越えなくてはなりません。

市民の皆さまのご健康と良き年となりますよう心よりご祈念申し上げます。